



気になるあいつ  
わかぎゑふ

双葉社

## 気になる子供2

以前に「気になる子供」というタイトルで元劇団員の子供、モト君のことを書いた。今回はその続編である。というのも、あれから一年、モト君はますます気になる子供に成長し続けているからである。

体が妙に大きい方だとは前にも書いたが、モト君はその後も成長を続け、どうやら入った保育所でも、体がデカイ方らしい。赤ちゃんの時に抱いて「拷問か？」と思うほどだったから、骨太の子供である事は変わっていない。

保育所に行くようになって、以前の宇宙人のようなモト君にしか分らない言葉は発しなくなつたが、その代わり女の子とばかりコミュニケーションをとりたがる「スケベな子供」に変身しているようだ。

体が大きいのでちよつと誰かを突いたら、その子が転んで怪我をしたとか。お遊戯を習ったらひとりで先に踊りだして先生を困らせたとか。この間は「かさ地蔵」の発表会があつたのだが、モト君はキャストに入ってもらつてないのに台詞を全部覚えて今も毎日稽古しているなど気になる話題満載の子供になってきた。社会性のないところがますます小さい頃の私そっくりだ。

母親のSちゃんに「この言い方、ほんまに私も子供のころこんなこと言つたわ。やっぱり私の子か？」なんて聞く事もしばしばある。Sちゃん

んもそこは関西人なんで「Fさん、あの夜のこと忘れたんですか？」なんて言ってるが。

モト君のお気に入りは女の子たちとする「おままごとごっこ」だそう  
で、料理が好きなので一旦やり出したら止まらないという。彼は家でも  
子供用のママレンジで卵焼きなどを作るらしく、男の子なのにお母さん  
が料理してたらじっと見つめ続けるらしい。

先日、劇団のイベントがあり、レストランを借り切ってやったのだが、  
そこにモト君一家もやってきた。パーティの間はオモチャに夢中だった  
が、打ち上げの席で厨房からコックさんが出てくると、彼はその後をつ  
いて回った。

3歳の男の子がちよこちよこ着いてくるので、コックさんたちも可愛

いと思ってくれたのか、シェフがコックの帽子とスカーフをモト君につけてくれた。写真がその様子である。それから彼は厨房に入れてもらい、大きな冷蔵庫や、フライを揚げる機械を見学して、すっかりご機嫌だった。料理好きの子供にとっては夢のようなせきあだったに違いない。

実は、モト君が1歳の時に亡くなってしまったのだが、お祖父ちゃんが有名な和食の花板さんだったこともあり、私は彼がコック帽を被って喜んでる姿を見て泣いてしまった。「おじいちゃんが生きてたら、どんなに喜んだ事かしら」という気持ちになったからだ。身内でもないが、やはり気になる子供に対してはそんなことも自然と思うのもだ。

3歳にして厨房で遊ぶ子供。モト君は今後同大きくなっていくのだからか、楽しみみな事である。

---

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっここのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『太りすぎの雲』『イブの抜け穴』など多数。

---